

果樹情報 第7号 (R8.6.24~R8.7.7)

県中農林事務所須賀川農業普及所・JA 夢みなみ(すかがわ岩瀬地区、あぶくま石川地区)

1 果樹の生育状況

りんご「ふじ」・なし「幸水」「豊水」は満開日が早かったため、暦日対比で平年よりやや大きく、満開後日数比較で平年並です。

表1 管内の生育状況(6月15日現在)

樹種	品種(調査地点)	本年		平年		平年比	
		縦径 mm	横径 mm	縦径 mm	横径 mm	縦径	横径
りんご	ふじ(須賀川市浜尾)	42.8	44.6	36.6	37.2	117	120
	ふじ(鏡石町高久田)	38.6	38.8	35.5	35.3	109	110
	ふじ(石川町沢井)	37.2	39.9	33.6	33.2	111	120
	つがる(石川町沢井)	43.3	46.6	36.0	38.2	120	122
	ジョナゴールド(石川町沢井)	41.4	44.6	36.6	38.5	113	116
	シナノスイート(石川町沢井)	37.2	37.2	35.2	35.4	106	105
もも	あかつき(須賀川市浜尾)	46.2	44.5	44.7	40.8	103	109
なし	幸水(須賀川市越久)	26.3	30.8	25.6	29.5	103	105
	豊水(須賀川市越久)	29.1	31.8	27.6	29.8	106	107

鏡石町のりんご「ふじ」は1998~2025年の28年の平均、石川町のりんご「シナノスイート」は2017~2025年の9年間の平均を平年値としている。そのほかの平年値は1996~2025年の30年間の平均。

2 生育予測と栽培上の留意点**(1) 共通****ア かん水**

5月から夏季にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6~7mm、曇天日で2~3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25~30mm程度(10a当たり25~30t)を目安として、5~7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) なし**ア 生育予測(農業総合センター果樹研究所:福島市飯坂町)**

DVRモデルによる「幸水」の収穫予測は、収穫盛期が8月21日と予測されています。また、同モデルによる裂果初発日は7月3日頃と推測されています。

イ 着果管理

裂果が観察される時期は他の果実の裂果発生を助長させるおそれがあるため、摘果を控え、裂果が終息したら修正摘果を実施しましょう。裂果終了の目安は満開後90日頃となり、須賀川市の幸水で7月14日頃と考えられます。

樹勢の低下や果実肥大の鈍化が観察される場合は新梢停止期前(満開後60~70日)に着果数の10~15%程度を目安に摘果し、着果数を調整しましょう。なるべく果形、肥大の良い果実を残し適正着果量に調整するよう心がけましょう。

ウ 新梢管理

「幸水」の予備枝誘引適期は、新梢停止期の約10日前であることから、満開65～75日（須賀川市の幸水で6月20日～6月30日）を目安に作業を進めてください。新梢誘引は腋花芽着生向上のほか、樹体の受光条件向上、薬剤散布の効率化、翌春における長果枝棚付け作業の効率化などの効果も期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施しましょう。

(3)りんご

ア 着果管理

7月は花芽分化期です。仕上げ摘果の遅れは花芽分化率を低下させる原因となるので、速やかに終了させてください。なお、仕上げ摘果終了後は随時修正摘果を実施し、小玉果や変形果、病害虫の被害果、傷果、サビ果等を摘果してください。

また、高温条件下では果実に直射日光が当たることにより日焼け果の発生を助長するため、着果位置に留意しましょう。

イ 枝吊り・支柱立て

果実の肥大にともない枝が下垂するため、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止、防除効果の向上のため、枝吊りや支柱立てを行いましょ。

(4)もも

ア 核障害(農業総合センター果樹研究所:福島市飯坂町)

満開後60日における「あかつき」の核障害発生状況は、核頂部亀裂が35.0%で平年よりかなり少なく、縫合面割裂は20.0%で、平年より多い傾向にあります。

イ 硬核期(農業総合センター果樹研究所)

本年のもも「あかつき」の硬核期開始は5月31日でした。

ウ 収穫期予測(農業総合センター果樹研究所)

DVRモデルによる発育予測では、あかつきの収穫開始日は7月23日頃で収穫盛は7月26日頃と予測されています。

エ 修正摘果

硬核期が終了し、果実に肥大差が見られるようになったら実施しましょう。果頂部が変形している果実や縫合線が深い果実、果面からヤニが噴出している果実、果皮が変色している果実、果頂部の着色が早い果実などは、核や胚に障害があることが多いので、これらの摘果を実施しましょう

オ 着色管理と早生品種の収穫

「あかつき」の収穫期は平年より早まる予測ではありますが、今後の気象によって変動するため、各園地及び品種ごとの果実の成熟状況に注意し、枝吊りや支柱の設置、夏季せん定及び反射シート設置等の収穫直前の管理作業は、時期が遅れないよう計画的に、実施してください。

3 病害虫防除

(1)りんご褐斑病・輪紋病

梅雨期は二次感染を繰り返すおそれがあるため、10日間隔で本病防除剤を使用し、防除を徹底しましょう。

また、輪紋病は果実、枝梢部ともに感受性が高い時期となるため、梅雨期にいずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布するようにしましょう。

(2)ももせん孔細菌病

梅雨期は二次感染により発病が急増するおそれがあるため、引き続き注意が必要です。薬剤防除に当たっては、10日間隔でせん孔細菌病防除剤を使用しましょう。その際、早生種は収穫前日数に十分注意してください。また、罹病部位は見つけしだい取り除き、発生拡大が懸念される場合は速やかに袋かけを行ってください。

(3)ももホモプシス腐敗病、灰星病

早生種では灰星病の重要防除時期に当たるので、6月中下旬及び7月上旬頃に防除剤を散布しましょう。中～晩生種ではホモプシス腐敗病と灰星病を防除するために、防除暦に従って農薬の散布を行ってください。薬剤防除は、収穫前日数に十分注意して実施するようにしましょう。

(4)なし黒星病、輪紋病

梅雨期は二次感染により黒星病の発病が急増するおそれがあるため、罹病部位は見つけしだい取り除き、園外に持ち出して処分するなど耕種的防除を徹底してください。特に、「幸水」では本病に対する果実の感受性が高い時期（満開後50～90日頃、須賀川市の幸水では6月5日～7月14日）が梅雨期と重なるため、注意が必要です。輪紋病も重点防除期になるため、梅雨期に両病害に効果がある薬剤を降雨前に十分量散布してください。

(5)モモハモグリガ

第2世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月5半旬頃と予測され、第3世代の防除適期は6月6半旬頃と推定されます（表3）。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましょう。

(6)ナシヒメシンクイ

第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、6月3半旬頃と予測され、第2世代の防除適期は6月5半旬頃と推定されます（表3）。

本種の第1世代幼虫は、主にもも等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はなしなどの果実に移行します。例年、なしでの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。なお、薬剤による防除を実施する場合には、使用基準を遵守しましょう。

(7)モモノゴマダラノメイガ

被害が発生しているもも園では、他のシンクイムシ類との同時防除も含め、生育に合わせ6月上旬頃から10日間隔で2～3回防除を行いましょ。被害果実は見つけしだい摘除し、5日間以上水漬けにするか、土中深く埋めましょ。

また、前年に被害が多発した園では袋かけを早急に実施ましょ。

(8)ナシマルカイガラムシ

果樹研究所内のりんごでは、6月1日に歩行幼虫の発生が初確認されました。

カイガラムシ類はふ化期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除ましょ。ただし、1回の防除では十分でないため、1週間から10日後にもう1度防除することが望ましいです（平成31年3月果樹指導要綱技術編）。

(9)ハダニ類

高温期は増殖が速いのでハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になった場合、速やかに防除を行いましょ。

(10)カメムシ類

ほ場への飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょ（表2）。

表2 JA 夢みなみ・須賀川農業普及所カメムシトラップ調査結果

調査日	須賀川市 和田六軒			須賀川市 越久			鏡石町 高久田			石川町		
	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考	チャバネアオ	クサギ	備考
6/1	40	0		39	2		38	0		5	0	
6/8	5	0		2	0		34	0		2	0	
6/15	7	0		6	0		3	0		0	0	
6/22	3	0		3	1		8	0		1	0	

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和8年6月15日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ		ナシマルカイガラムシ	
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第1世代 ふ化開始	第1世代 ふ化盛期
2℃高い	6月22日	6月27日	6月14日	6月22日	5月29日	6月9日
平年並	6月24日	6月28日	6月14日	6月24日	5月29日	6月9日
2℃低い	6月25日	7月1日	6月14日	6月26日	5月29日	6月9日

起算日：モモハモグリガ第1世代誘殺盛期 5月27日
 ナシヒメシンクイ越冬世代誘殺盛期 4月16日
 ナシマルカイガラムシ 3月1日（演算方法は三角法）

作成者：県中農林事務所須賀川農業普及所 電話：0248-75-2181 FAX:0248-72-	ご不明の点は、最寄りのJAまたは須賀川農業普及所にお問い合わせください。次回の発行予定日は、7月8日(水)です。
---	--